

ゴジラの種を見つけた

日々刻々と変わる子どもの姿や多様な遊びを記録したり、その記録を今後の保育に活かしたりするために、どのような工夫をしていますか。日々の保育記録を、「科学する心を育てる」視点（例えば、本事例集での、好奇心、疑問、必要感、探究）で考察することで、体験の内容や成長が明らかになることが、本事例集の各事例からも分かります。この実践は、一人の子どもの「科学する心」に関する体験に焦点を当て、3、4歳児の時の年齢毎の特徴と、5歳児の時の体験の深まりや広がりを捉えています。対象児が積み重ねている体験の特徴や育ちに焦点を当てることで、5歳児の学級集団としての育ちも深く読み取ることができます。

国立大学法人 山梨大学教育学部附属幼稚園

3・4・5歳児

一人一人の育ちに注目して ～Aさんの3年間～

本園は、子ども一人一人が、生活の中で自分なりの意見を大切に、自ら園生活を創り出す主人公となることを願い、保育実践を行ってきている。そして、様々な子どもの姿を捉え直し、年齢毎の育ちについて考えてきた。3歳児は、初めての園生活の中で、それぞれの面白さを感じながら自分なりの意味をつむぎ出す、「面白がって意味をつむぎだす主体」、4歳児は、葛藤しながらも、「～だから～なんだ」と思考していく、「揺れながら思考する主体」、5歳児は、クラスの一員として自分なりに、「誇らしく参加参画する主体」と捉えている。これらの年齢毎の捉えを踏まえ、Aさんに焦点を当て、「科学する心」の育ちを考える。

3歳児の時、「自分一人で探究する楽しさにひたりながら」

<2015年>

場面1. 「まず、角を曲がって、まっすぐに行きます」

<地図に描いて表す楽しさを体験：9月中旬>

休日明け、Aさんは、「昨日、〇〇という電気屋さんに行ってきました」と話した。

保育者：「新しくできたお店だね。先生は、まだ行ったことがないな」

Aさん：「1階には洗濯機とか冷蔵庫がありました。

2階に行くとパソコンを売っています」

保育者：「へーそうなんだね。でも、どこにあるのか分からないな」

Aさん：「まず、角を曲がって、まっすぐに行きます」と、道順を説明し始めた。

そこで、保育者はAさんの話しを聞きながら、地図のようにしてみようと、紙に描き始める。

Aさんは普段、絵を描くことは少ないが、「自分で描く」と言って、地図を楽しそうに描きあげた。

Aさんが4歳時に描いた絵(図1)



【考察】 関心ごとを分かり合える人と関わることが、面白くて仕方がない様子が伝わってくる。自分の興味関心に集中して向かっていく姿や、ものへの関心が高く、不思議だと思ふことを言葉にして大人に伝える姿があった。さらに、興味をもつと、絵を描く経験が少ないながらも、自分でやってみる姿が見られる。地図にして表わすことに興味をもち、自分一人で表現を工夫する楽しさを感じている。

4歳児の時、「葛藤する思いの中で」

<2016年>

当初の姿と保育者の願い

Aさんは、場面1のような姿があったものの、戸惑いを感じていることも多い。例えば、「やらなくてはならないと分かっているのに、できない自分を感じる」「新しい環境の中で、予想と違うことが起こる心地悪さを感じる」など、不安定な感情が言動に現れたり、安心できる場所を探したりする姿が見られた。そこで保育者は、揺れながら思考するAさんの“葛藤”を大切に、自分の力で越えられるようにしたいと考えた。

場面2. 「明日の天気教えてください」

<自分の関心事で友達とつながる心地良さ：5～6月下旬>

地元テレビの天気予報のコーナーに、5歳児が出演したことをきっかけに、Aさんは天気予報に関心をもち、毎日、天気予報を確認していた。この時期、クラスで楽しんでいた“ひまわりニュースごっこ”(クラス全員の前で、その日の楽しいことを話す)で、Aさんは、「今日は晴れ、気温は25℃まで上がります」と、張り切って教えてくれた。その後、毎日、水遊びをするようになると、AさんはCさんが、明日も水遊びが楽しめるように、天気が良くなることを願っており、Cさんに、「明日も天気調べてくるね。水遊びしてね」と、話しかけた。Cさんが、「Aちゃんてさ、優しすぎるでしょ」と言うと、照れていた。友達のために自分ができようことをすることで、友達が喜んでくれる快感や充実感を味わった。

場面3. 「みんなに伝えなくては！！」

<多様な発見や気づきを分かち合う喜びの芽生え：9月下旬>

イノシシが隣の小学校に現れると、子どもたちは、イノシシが本当にいるのかを疑い、様々な形で確かめたり、イノシシの落とし穴を作ったり、足跡が見つかった中学校を探検したりした。Aさんは、「家が近いから、幼稚園に来るかどうかが見張ります」と言い、降園してから自主的にパトロールにでかけた。「今日はいませんが、足跡はありました」などと報告したり、友達がいる絵(図1)を描いたりする。Aさんの報告に、毎日、一喜一憂しながら、子どもたちで同じ興味を共有し合うことが増えていった。

[考察] 自分で始めた天気予報が、友達のためになり、喜んでもらったことをきっかけに、イノシシ事件では、クラスみんなのためにパトロールをして、情報を伝える姿につながった。Aさんは、天気や気温などの情報を確認したり、足跡などのいつもと違う状況を観察したりして、「科学する心」が育まれる体験を重ねた。また、友達に“伝える”から、“気づきや情報を共有する”関わりが変わった。

5歳児の時。「新たなことを知ることを友達とともに分かち合う喜びへ」

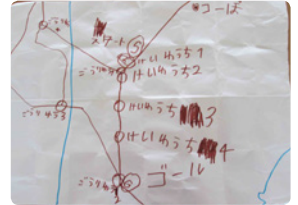
<2017年>

場面4.「ゴジラの種って何？」

<不思議から想像を広げ、関心を深める：6月>

クラスでサツマイモの栽培をすることになる。みんなで買いに行く準備をする。Aさんは、買い物に行く先の地図を作り、持って出かけた。お店では、サツマイモの苗や植え方の説明を聞き、苗を買って園に帰った。

園に着き、Eさんがお店で、『ゴジラの種』を見つけたことが話題になった。「**ゴジラの種をまくとどうなるのか**」と、みんなで想像したり描いたりして、不思議さや面白さが広がったことで、種をまくことになる。



場面5.「新聞にすれば、いいんじゃない」

<自分なりの発見を友達と分かち合う：6月>

クラスみんなは、保育者の援助を受けながら、説明書に、『適温 15℃～20℃、25℃以上も成長が悪い。10℃以下も成長しない。うねの高さは20cm』と、書いてあることを知り、『ゴジラの種』をまくための準備を進めた。Aさんは、早速、保育室の温度計を持ち出し、DさんやBさんと、「**イチゴの日陰の所に行ってみよう!**」「**もっと暗い所は?**」「**サツマイモ畑の方がいいんじゃない**」など、考えを出し合いながら測った。しかし、何処も30℃を少し下回る程度であった。

Dさんの、「種だけでも見てみよう」との提案で、袋を開けると中から白い種が出てきた。「白い」「卵っぽい」などの声がある中、「大玉レタス『ゴジラ』」と書いてある字が読めるAさんが立ち上がり、「いえ、いや、そんなことはない。レタスだから」と言ったものの、本気で怖がって逃げ出した。

子どもたちは、「**うねの高さってどこから測るの?**」と、知らないことに向き合い、「**日陰なら気温は低いと思う**」と、知識や経験を基に考えたり、家族から情報を得たりして栽培に関する探究をしていった。

そして、次第に自分が知ったことを友達と伝え合い、考え合うようになった子どもたちは、クラスみんなが集まった時に、「今日の発見」と称して、写真を交えて説明するようになった。

気温のことでは、AさんとDさんが、『**ゴジラ**』は、まだ25℃以上で植えられなかったです』「一緒に測ったんだよね」と話すと、Fさん「**じゃあ、寒いところを見つければ、**」Jさん「**冷蔵庫に入れてみればいい、**」Kさん「**えー、寒すぎるよ**」など、他の子からもいろいろな意見が出た。

「中間地・暖地・寒冷地」などの説明書の難しい言葉が分からないとの問題は、身近にいる分かる人として、「祖父」の存在を考えついたFさんが聞いてくることになり、「9月頃に植えるとよい」ことが分かった。そして、発見したことを9月まで忘れないように、「いつも、やっているみたいに、新聞にすればいいんじゃない」と、提案したFさんと、Aさん、Bさんの3人で一緒に作り上げた。



<その後の姿>

<10～11月>

Aさんたち数名は、エダマメ栽培で作ったビニールハウスを思い出し、「**ゴジラハウス**」を作って栽培を始めた。ハウスは、所々に穴を開けて洗濯バサミで塞ぎ、通気や気温の管理ができるように工夫した。Aさんは、ハウスの中と外に温度計を下げ、毎日記録した。芽が出てきて喜んだある日、ハウスの外の気温が14℃、中の温度が13℃であった。そこで、Aさんはみんなが集まった時に、ハウスの外と中の気温と適温を伝え、「**温度を上げるにはどうしたらいいか**」と、相談をした。友達の「**落ち葉をたくさん集めて中に入れる**」との考えを試すことになった。



[考察] Aさんは、「**触れ・感じ・気づき・考え・試す**」ことを通じて、「**自分一人で新しいことを知る喜び**」を越え、友達とも「**新たなことを知って分かち合う喜び**」を得て、「**科学する心**」が育まれる体験につながった。以前は、自分の関心のためだけのものだった数字や文字、地図が、「**ゴジラの種**」を育てたいという友達との思いの中で、うねの高さ・温度、季節の変化、場所などの、様々な問題の解決のために用いられることになった。友達と温度を測り、異なる意見を受け入れ、ともに考えながら関わっている。また、「**ゴジラの種が芽を出して欲しい**」との思いで情報を集め、育て方を読み、あきらめずにどうやって育てていったらいいのかを友達と試行錯誤し、問題解決につながっている。